

## 今日のみことば

### □ 9月24日(日) 出エジプト 24章

この章は神の契約の批准である。神の御心の宣言(1-2)。民が契約を受け入れること(3-8)。民の代表が山に上ったこと(9-18)が記されている。

### □ 9月25日(月) 出エジプト 25章

イスラエルの民が唯一の生ける真の神を拝する礼拝は、目に見える形で具現化されなければならなかった。神はご自分で詳細な模型を与えられ、このようにせねばならぬと言われる。

### □ 9月26日(火) 出エジプト 26章

幕屋を作ることを命じられる。幕屋全体は神の臨在に形です。その中に聖所と呼ばれる天幕が作られた。それらを作るための細かい指示を神は与えられた。

### □ 9月27日(水) 出エジプト 27章

ここには幕屋についての細かい規定が続いている。祭壇(1-8)。庭(9-19)。ともし火の油(20-21)について述べられている。こうして神礼拝のための幕屋の細かいことが定められた。

### □ 9月28日(木) 出エジプト 28章

ここには大祭司とその子たちの衣服について規定されている。天幕が神の栄光の場所とするなら、仕える祭司もそれにふさわしい服装を整えなければならないとした。

### □ 9月29日(金) 出エジプト 29章

祭司の任職の儀式は、非常に念入りな、また荘厳な儀式であった。祭司と備品のすべては、神への奉仕のために特別に聖別されなければならない。

### □ 9月30日(土) 出エジプト 30章

ここには幕屋についての細かな規定がいくつも定められてる。神を礼拝する者はいい加減な気持ちでははならない。これはすべて神が定められたところである。

## ろば No. 1834

2017年 9月24日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

使徒言行録 20:35

主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。

私たちがキリスト信徒として最高の喜びは、「受けるよりは与える方が幸いである」とのイエスの言葉を体験させていただく時です。私たち人間・俗人の喜びはその反対のほうです。様々なものをいただく時、人は幸せを感じるのではありませんか。裕福な人をうらやましそうに見るのが普段の私たちでしょう。私たちクリスチャンはそうではありません。すべてを分かち合うときにその幸せを感じるのです。その理由をしっかりと心にそのことを刻みつけさせていただくのです。

初代のキリスト信徒たちが、人々からなぜクリスチャンとあだ名されたかを思い出すのです。それは彼らが人々から、うらやましが

られる生活をしてきたからです。そのいきさつは使徒言行録に記されています(11:24-26)。その詳細は、聖霊降臨の後に弟子たちを中心にして営まれてきた彼らの日々にありました(2:43-47, 4:32-37)。これこそが私たちが望む最高の生活なのです。そのすべてのものを分かち合い、共有する生活に、ただあこがれを持ってやって来た者は、その仲間に入れてもらえません。それがアナニアとサツピラの事例です。そこに私たちは大切な秘訣を聞きとらなければならないのです。

私たちにとって、最高の出来事とは何ですか。主が共にいてくださることを置いてほかに、それはありません。初代教会の

信徒たちは、日々その体感の喜びに明け暮れていました。その姿を見て人々は彼らをクリスチャンと呼んだのです。そのことを思うとき今日のキリスト教会は、クリスチャンが集まっているところとは言いがたいかも知れません。主にある喜びがキリストの教会から溢れ出ているとは言いがたいからです。

私たちはその初代教会に何を聞くのでしょうか。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」(2:42)と言います。「ペトロの言葉を受け入れた人々はバプテスマを受け、その日に三千人が仲間に加わった」とあります。人々はペトロの説教に「心を刺され」て、十字架のイエスによる罪の贖いを受け入れました。そしてしっかりみ言葉に教えられて生きました。

あのガンジーがあるとき、プレトリアで求道して教会の礼拝に出席しました。しかし、数回通っただけで彼は失望してやめました。「私には会衆が特別に宗教的だとは思わない。教会は敬虔な人たちが集まる場所ではなく、世俗的な人たちが単に習慣として、社交のために集まる場所のように思われる」と彼は自叙伝にこのように書いています。心外だとの言葉が聞こえてきそうですが、そこの何が起こったかが大切でしょう。み言葉にしっかり聞いて、礼拝をささげる教会には、人生最高の喜びがそこにはあります。「神を賛美していたので、民衆全体から好意をよせられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つとされたのである」(使徒2:47)。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ヨブ記 2:1-13 苦難がおそったとき

無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていたヨブが一大試練に会うこととなります。神がそれを許されたことによります。神はそのようなことで、ヨブが神への信頼を失うことはないと確信しておられました。その試練は人が受ける試練で最上のものでした。家族や財産のみならず、自身の肉体をも完全に損なわれました。

ひとり残った妻も「神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言います。ところがヨブは「お前までが愚かなことを言うのか私たちは、神から幸福をいただいていたのだから、不幸もいただこうではないか」と言いました。何というヨブの姿勢でしょうか。見舞いに来た友人も、側にいて何も言うことができませんでした。私たちはこのヨブに何を聞くのでしょうか。神は何をこのヨブの有り様を通して、かど牢としておられるのでしょうか。「苦難」とは私の何なのでしょうか。



Read God's Word.